

高浜市役所本庁舎整備事業
事業提案書

①施設整備コンセプト

資産を活かし、タカハマチカラを活かす市庁舎づくり

「市民自治の拠点+防災拠点+まちづくりの拠点」これからの高浜市を創造する場を提案します

高浜市のまちづくりの特徴は、歴史と文化を背景に、産業、観光等の蓄積とコミュニティ形成に有利なコンパクトな市域を生かした「思いやり、支えあい、手と手をつなぐ、大家族たかはま」を目指していることです。これを踏まえ、私たちは、公共施設の老朽化と少子高齢化に伴う公共施設運用への配慮や大地震に備えた防災拠点整備を実現するために、**次の4点**を重視した、市民ニーズに応える市庁舎づくりを行います。



図1 瓦のイメージ 図2 高浜市の情報発信と賑わい形成に貢献する庁舎のイメージ

1 質の高い市民サービスを提供する庁舎

市外へ通う市民にとって利便性の高い駅前の「いきいき広場」と、市内の各地区をつなぐ幹線道路に面した現市庁舎跡地に建てる「新市庁舎」双方の立地利点を生かした機能仕分けを行います。

2 高浜市の未来を考えるまちづくり拠点庁舎

新庁舎には、市民と市職員が共にまちづくりを考える協働の場「市民会議室」を設けます。また、庁内ワーキンググループ(WG)によりまちづくりの拠点となる創造系執務室を実現します。

3 市民の安全安心を支える防災拠点庁舎

構成員Aの実績における、3.11の教訓を活かし、市民の安全安心を守る、最新の防災拠点を実現します。また、災害時に業務継続性を図りながら、迅速に防災拠点に対応する計画を実現します。

4 資源を活かしてタカハマチカラを活かす設計プロセス

既存施設の特徴を活かした改修と新築により機能補完することで、公共資産を最大化する計画とします。市民や地域産業との連携を図るWGにより、ニーズを的確に反映する設計プロセスを重視します。

いきいき広場との連携整備について

役割が明確化され、わかりやすい庁舎

「いきいき広場」には、こども未来部と教育委員会を新たに配置します。既に配置されている福祉部や地域包括支援センターなどと連携しやすくすることで、お年寄りからこどもまで、幅広い世代に対応する福祉・教育の拠点とします。また、三河高浜駅にペDESTリアンデッキでつながる立地を活かし、会社や学校からの帰りに気軽に立ち寄れる「市民利用会議室」を計画し、市民活動や生涯学習機能の強化を図ります。これらにより「いきいき広場」の利用率を高め、**公共施設としての資産価値を向上**します。

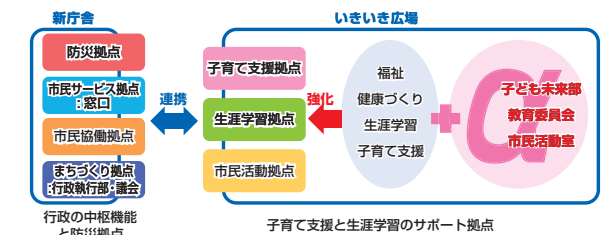


図3 新庁舎といきいき広場の役割明確化の考え方

	After	活かす	before
1階	1 会議・研修室	最小限の改修で活用 市民が立ち寄りやすい地上階に配置	貸店舗
2階	2 市民利用会議室	既存の音響設備空調等を活かして現状活用 既存いきいきホールを活用	いきいきホール
3階	3 教育委員会	既存の照明、空調、間仕切を活かし現状活用 既存会議・研修室を活用し、2階ホールに面した位置に配置	会議・研修室 A・B
	4 会議室	既存の照明、空調、間仕切を活かし現状活用 既存ワーキングルームを活用	ワーキングルーム
	5 子供未来部	最小限の改修で活用 キッズルームこころんに隣接して配置し、連携を強化	おもちゃと絵本の夢ランド
	6 現状維持	既存の家具や設備機器等を活かし現状維持 既設の間仕切壁や調理台等を保存し、現状維持	キッズルームこころん ほっとスペース クッキングスタジオ

図5 いきいき広場の活用法の考え方



図4 いきいき広場の平面イメージ

※ WG：ワーキンググループを示す

①施設整備コンセプト

窓口スペースについて

ユニバーサルデザインに配慮した1階窓口

市民が利用する窓口を新庁舎の1階に集約して配置します。窓口全体を見渡すことができる「中通路型プラン」に、目的の窓口へ誘導する「ユニバーサルサイン」を組みあわせることで、すべての市民にとって使いやすい窓口とします。

また、迅速で的確な窓口業務とプライバシーに配慮した相談業務が行えるオフィスレイアウトや動線計画に配慮し、職員が働きやすい窓口をつくりま

項目	UDの主な取組み方針
案内・誘導・サイン等	動線の最短化、段差のない計画、見通しの良い平面、触知案内、音声誘導、非常文字放送等様々な障がい・状況に応じた計画
色彩計画等	明度差の確保、光らない仕上り材料選定、弱視・高齢者を考慮した色彩
トイレ等	障がいと行動特性を把握した計画、多目的トイレ・授乳室の各階設置
エレベーター	カゴ内双方向モニター設置や乗降扉のシースルー化を検討

図6 ユニバーサルデザインの取組み方針



図7 中廊下型プランとユニバーサルデザインを組み合わせた窓口のイメージ

ワンストップ窓口への対応

諸証明の申請・交付を対面式で即時に行う「クイック窓口」（総合窓口、所要時間2〜3分）と、時間を要するサービスに対応する「ステイ窓口」（届出・相談窓口、所要時間10分以上）の併用により、手続きにかかる移動距離・時間の短縮を図ります。



図8 窓口業務の構成

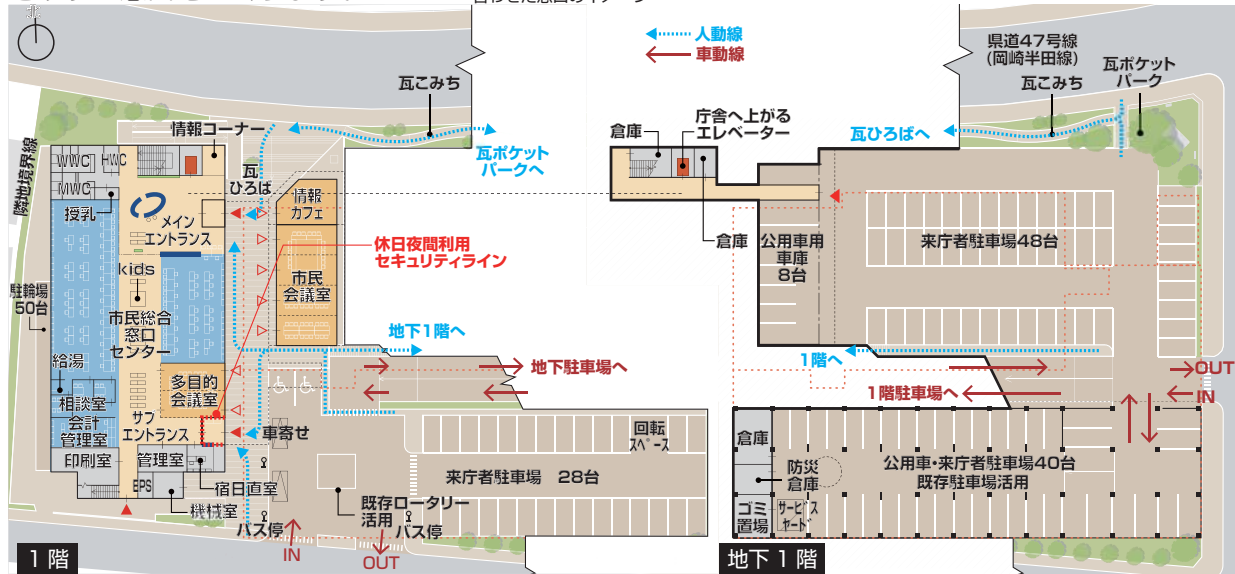


図9 新庁舎の1階・地下1階の配置イメージ

執務スペースについて

フレキシブルな執務空間

フロア内の動線が短く、部署レイアウトがしやすい中通路型プランを基本とします。OAフロアは置敷きタイプを用い、間仕切りの位置が変更になっても柔軟に対応できる計画とします。

WGの開催：使い手の目線に立った庁舎づくり

市民、行政、議会、それぞれのユーザーと共に考えるワーキンググループ(WG)を開催します。現在の施設の状況調査や最新の庁舎の見学会などにより、課題の抽出と解決方法の検討を行い、使い手の意見を計画に反映します。

全体工程	平成27年										平成28年		平成29年		
	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	1	9
基本設計	基本設計										解体・別棟施設建設		クラフトアップ		
実施設計	実施設計										解体・別棟施設建設		クラフトアップ		
開発許可	開発許可										解体・別棟施設建設		クラフトアップ		
確認申請	確認申請										解体・別棟施設建設		クラフトアップ		
建設工事	建設工事										解体・別棟施設建設		クラフトアップ		
外構工事	外構工事										解体・別棟施設建設		クラフトアップ		
議会	ソニック設備検討										議会		議会		
庁内WG	WG										WG		WG		
庁内作業部会	WG										WG		WG		
地域産業WG	WG										WG		WG		

図10 新庁舎設計スケジュール(案)

※ WG：ワーキンググループを示す

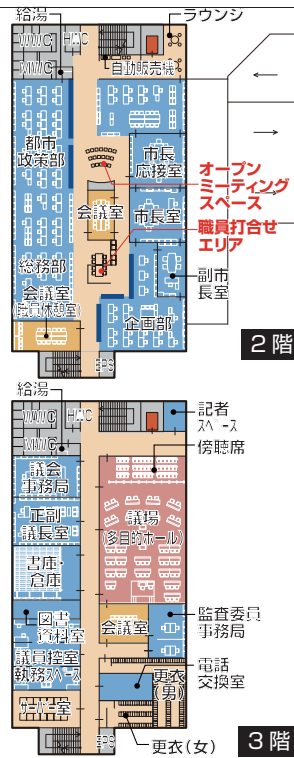


図11 新庁舎の平面イメージ



図12 WGにより計画された執務空間(構成員A実績)



図13 ワークショップの様子(構成員A実績)



図14 可変サイン(構成員A実績)

①施設整備コンセプト

多目的活用ゾーンについて

市民と職員の開かれた協働の場

- 別棟の「市民会議室」は、確定申告会場、講演会場等として、様々な単独利用が可能です。
- 「市民会議室」に隣接して高浜市の魅力や市政の状況を発信する「情報カフェ」を併設し、市民や行政との連携・交流を促進します。
- 新庁舎と別棟の間には大庇のある半屋外空間「瓦ひろば」を設けます。売店のオープンテラスや、地域のシルバー人材センターと連携した地元農家の野菜等を販売するスペースとして活用することで、市民が気軽に立ち寄れる空間を形成し、地域コミュニティの拠点となる交流の場を形成します。

議場の多目的活用

- 議場は平土間とします。家具を片付けて、議会以外の用途にも活用できる計画とします。
- 議場はエレベーター、階段、トイレの近くに配置し、時間外利用時のセキュリティを確保しやすい計画とします。

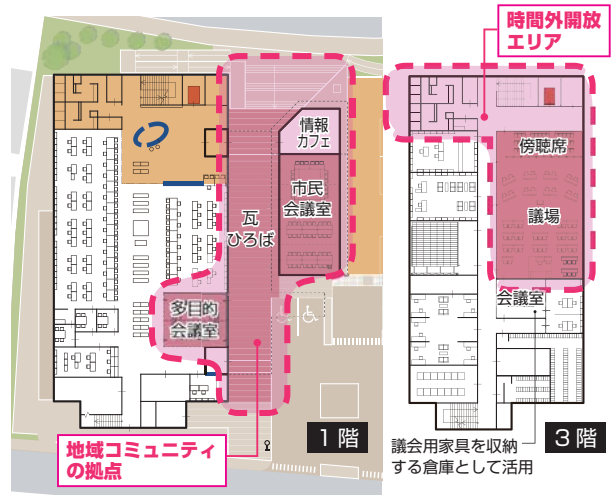


図15 市民会議室と議場の活用イメージ



図16 賑わいを生む瓦ひろばのイメージ（中央：朝市、右：瓦作り体験イメージ）

収益機能について

観光・地域産業を外部に発信する拠点づくり

- 市内の商工業事業者、団体等と開催するワーキンググループ「地域産業連携フォーラム」では、新庁舎の施工・運用の各段階で地域産業と連携できる仕組みづくりを行います。
- 高浜市内の観光スポットやグルメ情報の提供、そして、地元企業による企画展を行う「情報カフェ」を計画することで、観光・地場産業の活性化と「タカハマチカラ」の向上につなげます。



図17 地域事業者参画の仕組み

図18 高浜市の観光・地域産業の発信拠点

市民と職員をつなぐ地域密着型売店

- 県道に面した「情報カフェ」は、地域と連携した運営を行います。昼食やコーヒーなどを購入する職員と店員との何気ない会話が生まれる、憩いの場を形成します。



図19 地域と連携した運営の情報カフェのイメージ

その他の公共施設について

観光資源を活かす

- 近隣市町村の「観光・地場産業」との連携を図る拠点整備を行います。
- 鬼みちの拠点としての「瓦ひろば」や観光情報の発信や休憩場として「情報カフェ」を整備することで、既存観光資源との連携を図ります。

持続可能な保全計画

- 長期保全計画により、定期借家権終了後も健全な財政計画を維持・継続させる庁舎づくりを目指します。

防災拠点の集約・連携

- 主要インフラが整備されている市中心部の立地特性を活かした、防災機能の整備により、周辺防災拠点施設との連携を図る計画とします。



図20 高浜市の街歩き観光のイメージ（鬼みち）

図21 周辺都市との連携

①施設整備コンセプト

耐震安全性の確保について

比較検討による費用対効果の高い構造計画

構造体の重要度係数 1.25 の採用

庁舎は大地震時の人命確保はもちろんのこと、その後の十分な機能維持も要求されるため、構造体の重要度係数は 1.25 を採用します。

鉄骨造の採用

柱間隔の広さによるレイアウトの自由度や、躯体の軽量化による杭への負担の軽減・地震力の低減を重視した計画とします。また、コスト・労務・工期の面からも比較検討を行った結果、鉄骨造を提案します。

耐震構造の採用

構造形式は、計画敷地の地盤状況・建物用途・コスト・工期について比較検討を行った結果、耐震構造を採用します。

ガラス破損防止

ガラスは耐風性能や共振に配慮すると共に、層間変位を考慮したサッシ性能とすることで、ガラス破損を低減、2次被害を防ぎます。

既存庁舎駐車場の耐震性確保

既存庁舎の地下駐車場の一部を残し、新庁舎の駐車場として活用します。既存の構造状態を調査した上で、必要な部分に耐震補強を施し活用します。極力既存の地下駐車場を残すことで、駐車場台数の確保、解体範囲の縮減、解体費用の削減を図ります。

図 11 既存地下駐車場の活用イメージ

今回提案

比較項目		アラート オフサイト造	在来 RC造	鉄骨造
躯体コスト指数		108	98	100
標準工期(ヶ月)		10	13	10
労務 事情	遅延リスク	小さい 工場生産により リスク小	大きい 現場労務確保に 関するリスク大	小さい 工場生産により リスク小
	コスト増	小さい 工場生産品により リスク小	大きい 労働費高騰による コスト増の可能性	小さい 工場生産品により リスク小

図 9 構造種別の比較検討

今回提案



	免震構造	耐震構造 (重要度係数 1.25)
概要	積層ゴムなどのアイソレーターによる地震力の低減 	構造部材の塑性化による地震力の低減 
大地震時の揺れの大きさ・加速度	20~30に低減	100
耐震機能	人命の安全確保	十分な安全性を確保
	建物の損傷防止	無被害に抑えることが可能
メンテナンス性	免新装置のメンテナンス必要	不要
工期	13か月 地下躯体工事による工期増 免震装置による工期増 (水害時に免地震層が冠水するリスクが有る)	10か月

図 10 構造形式の比較検討

Jアラートのほか防災情報通信機器の設置について

防災情報通信機器のアンテナ設置

新庁舎の構造体を利用し屋上に架台を建て、防災用アンテナを設置します。

新庁舎のアンテナを屋上の南側に移設することで、現庁舎解体時に、防災用アンテナから八ツ面山中継所へ向ける方向の妨げにならない位置に計画します。

衛星電話の活用

防災無線による災害時の情報収集伝達のほか、平常時は電話回線として利用可能な衛星電話回線を利用した情報通信機器の導入が可能な計画とし、情報通信網の途絶を回避します。

防災備蓄の完備

① 可搬型リチウムイオン電池

オフィスで利用している電力や太陽光発電の電力を蓄え、非常時や移動用電源として利用。



② 非常用小型浄水装置

災害発生時、身近にある取水源の水から、その場で簡単に飲み水を造ることができる水処理装置。



③ 防水型 LED ソーラーランタン

空気で膨らませて使用。太陽電池で充電し繰り返し使用可能。備蓄時は折りたたみ可能。

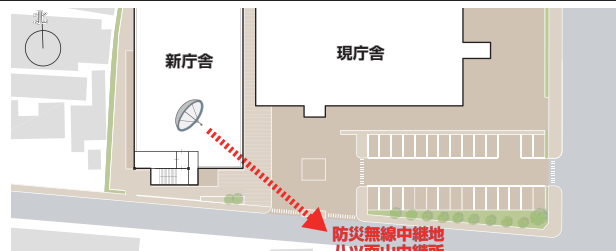


図 12 建替え工事中の防災用アンテナの向き

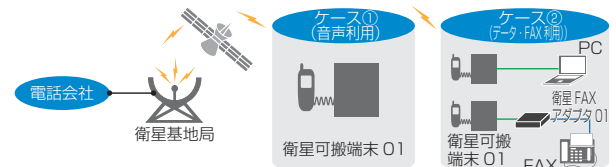


図 13 衛星電話の活用イメージ



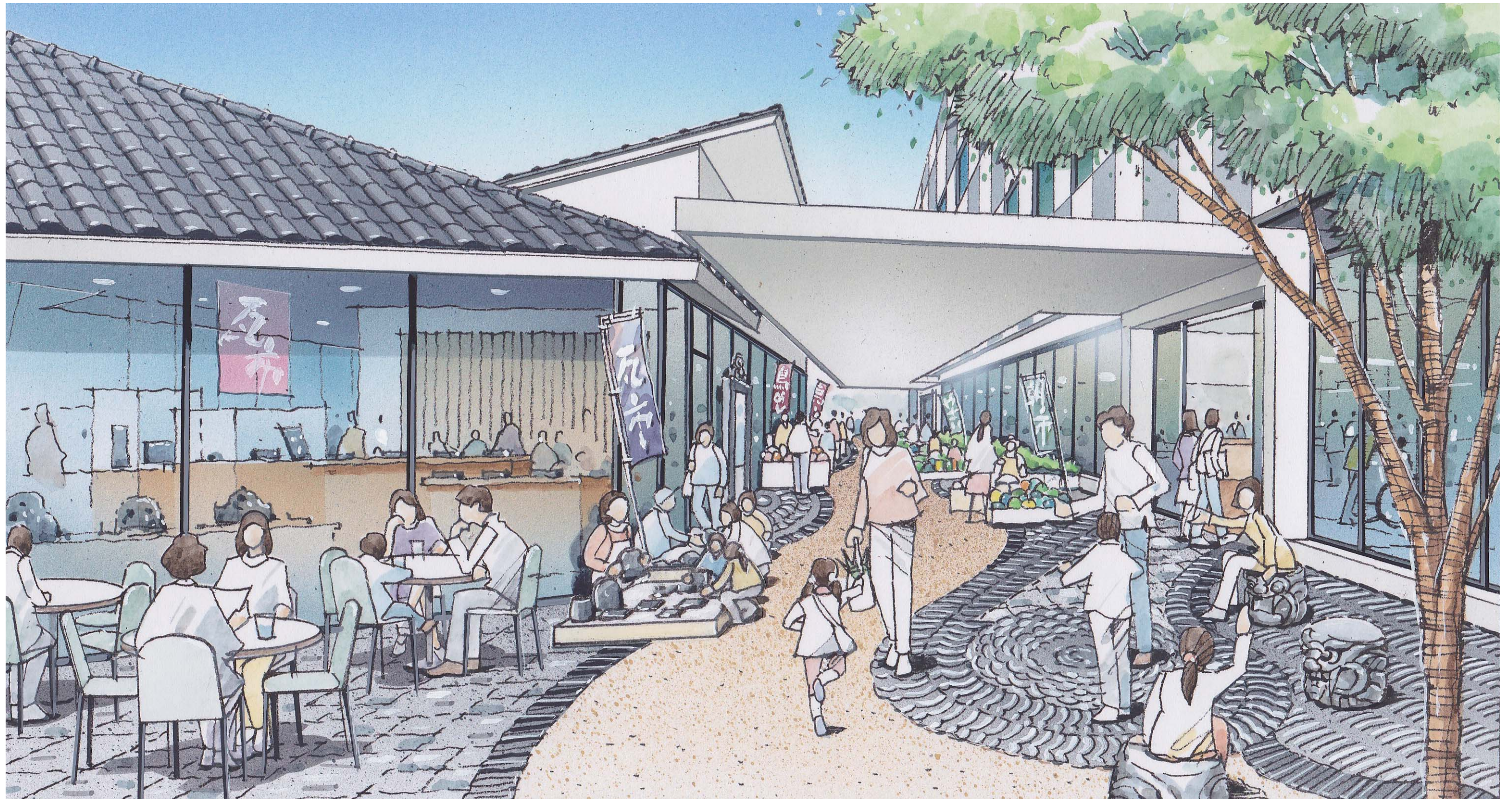
建物外観イメージ



瓦ひろばイメージ



敷地全体イメージ



内観イメージ（瓦ひろば）



内観イメージ（1階市民総合窓口）

室内壁面緑化のイメージ



動線の考え方

- ・1階レベルの駐車場出入口は交通量の少ない南側道路からのアプローチとすることで、交通安全に配慮した計画とします。
- ・徒歩での来庁者に配慮して、南北に通る瓦ひろばに面してメインエントランスとサブエントランスを設けます。自転車利用者は、南側に通用口を設置することで、庁舎に入りやすい計画とします。

総合窓口の考え方

- ・業務連携が必要な課・部署が隣接して配置しやすい「並列型オフィス」とします。
- ・諸証明の申請・交付を即時に行う「クイック窓口」（時間2～3分）と、時間を要するサービスに対応する滞在型の「ステイ窓口」（住民異動などの届出、国保年金関係・福祉の相談等、時間10分以上）の2構成とし、手続きにかかる移動距離・時間の短縮化を図ります。

凡例

- 市長室 副市長室・企画部・総務部
 - 市民総合窓口センター・会計管理者
 - 都市政策部
 - 監査委員
 - 議会
 - 多目的活用ゾーン
 - 共用部
 - 階段・EV・WC等
- ← 人動線
← 車動線
◀ 建物入口

情報コーナー

- ・利用しやすいメインエントランスに隣接配置

メインエントランス

- ・駅からの来朝者の流れを考慮し、北東側に設置

インフォメーションボード

- ・室内壁面緑化で装飾した案内板設置

コンシェルジュ

- ・メインエントランスからの視認性が高くエントランスホールと待合スペースの接点となる位置に配置

休日開庁対応窓口

- ・メインエントランスに面して休日開庁時に対応する窓口を設置、集約させることで、少ない職員で対応できる計画

総合窓口センター

- ・すべての窓口にパーティションを設置し、25ブースを確保

待合スペース

- ・巾の広い中廊下に待合スペースを確保
- ・すべての窓口が見渡せる計画
- ・キッズコーナー、ベビーベッド設置スペースを計画

相談室

- ・プライバシーに配慮し、遮音性能のある個室として計画

サブエントランス

- ・南側には通用口を設けることで、南側駐輪場からのアクセスに配慮した出入口を計画します

通用口

- ・自転車での来庁者に配慮して、建物南面に設置
- ・職員用の他、業者用の通用口としても利用

多目的会議室

- ・利用率の高い10～20人程度の会議室を1階に配置
- ・瓦ひろばに面することで、市民会議室と連携した市民開放多目的会議室を計画

瓦ひろば

- ・様々なイベント（瓦づくり体験、地元野菜販売等）に対応する瓦ひろばは、屋根のある半屋外空間として計画

情報カフェ

- ・高浜市の観光情報や市政情報を発信する「情報カフェ」を設置し、高浜市のまちづくり啓蒙を促す交流拠点計画

瓦こみち

- ・交差点側の庁舎入口・駐車場と新庁舎をつなぐ通路を瓦舗装の散策路として計画
- ・高浜市内の街歩き観光のひとつとして計画

三河高浜駅・いきいき広場

瓦ポケットパーク

- ・既存樹木、庁舎名盤や飾り瓦を活かし、高浜市の記憶を継承するポケットパークを計画

県道47号線（岡崎半田線）

瓦による企業広告

瓦ポケットパーク

市民会議室

- ・市民協働のほか、選挙管理事務所、確定申告会場や講演会場等、様々な用途や運用に対応する別棟の会議室を計画

来庁者駐車場

- ・サブエントランスに近い位置に障がい者用駐車場（2台）を計画
- ・来庁者用駐車場（28台分）を計画

【施設概要】

- 敷地面積：5,300㎡
- 建築面積：2,283㎡
- 延床面積：4,738㎡
- 容積対象：3,590㎡
- 容積率：67.74%
- 建蔽率：43.08%
- 階数：地上3階、地下1階
- 構造：鉄骨造、一部RC造
- 駐車台数：126台

配置図兼1階平面図

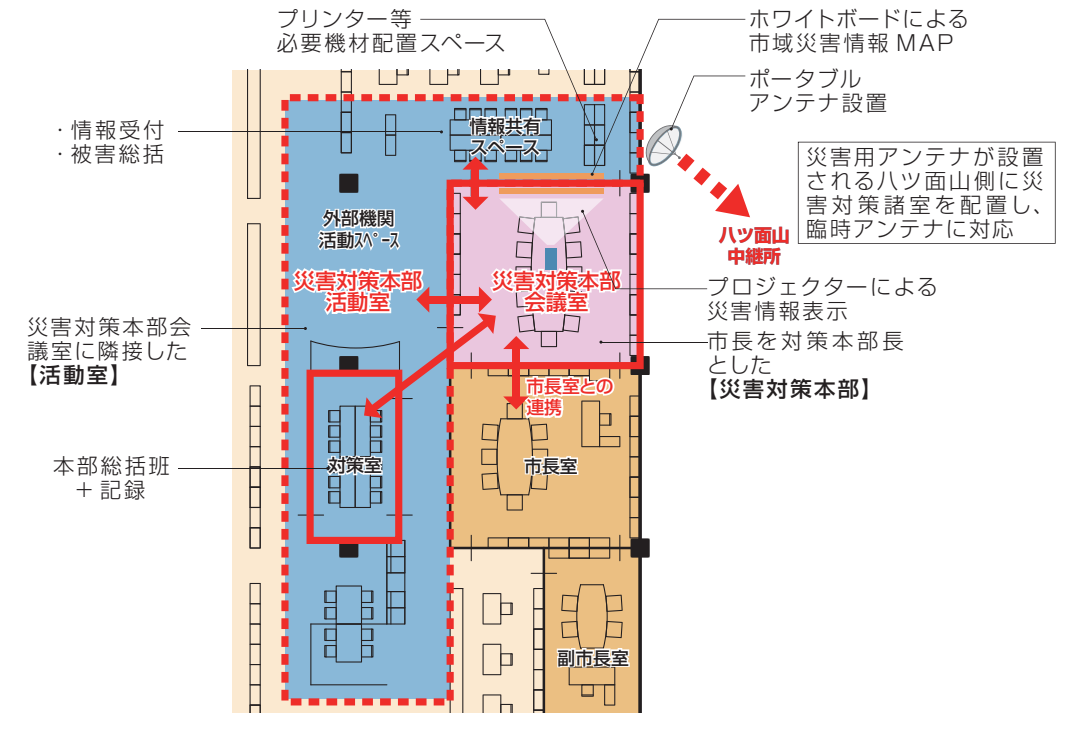
S=1/400

1期 1,045㎡

2期 170㎡

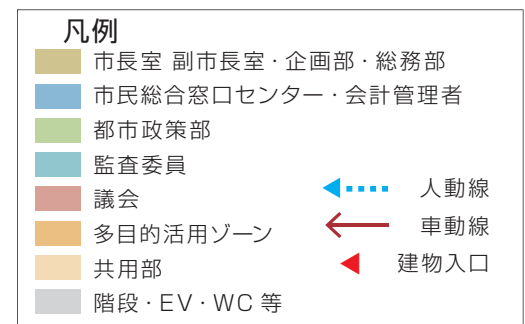
合計 1,215㎡

災害時における機能転換イメージ



提案 課の配置

3階	議会 + 議場 (共有会議室)	議会	議会
		監査委員事務局	監査委員事務局
2階	防災・まちづくり拠点	市長室 副市長室	市長室 副市長室
		企画部	人事グループ 総合政策グループ
		総務部	行政グループ 財務グループ
		都市政策部	都市整備グループ 企業支援グループ 都市防災グループ 上下水道グループ 地域産業グループ
1階	市民総合窓口 + 共有会議室 (市民協働) 売店 + 情報カフェ	市民総合窓口	市民窓口グループ 税務グループ
		センター	市民生活グループ
		会計管理者	



オープンミーティング スペース

・様々な講習会やプレゼンテーションに対応するスクリーンボードを計画

執務室

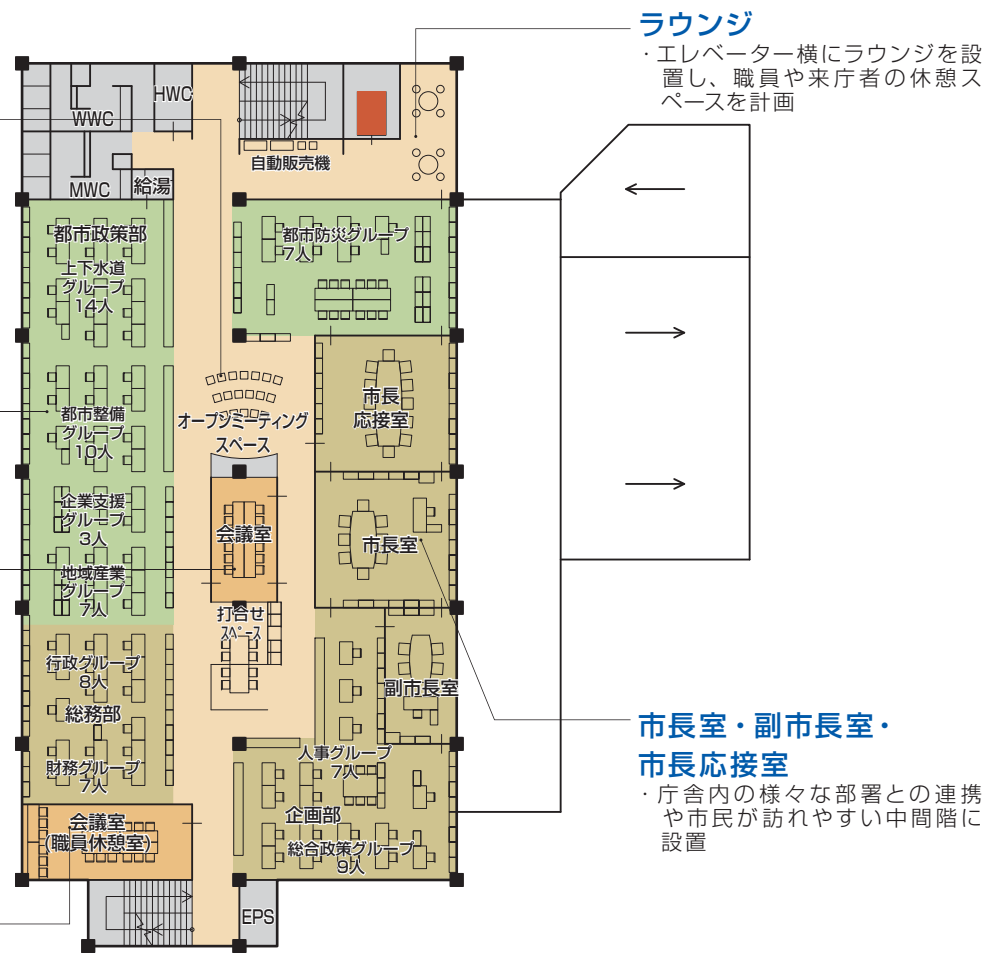
・窓口利用率の高いグループをエレベーターに近い位置に配置
・1人当たり10㎡のゆとりある執務空間を計画

会議室・打合せスペース

・12人程度の会議室や少人数対応の打合せコーナーを、利用しやすい共用スペースに計画

会議室兼職員休憩室

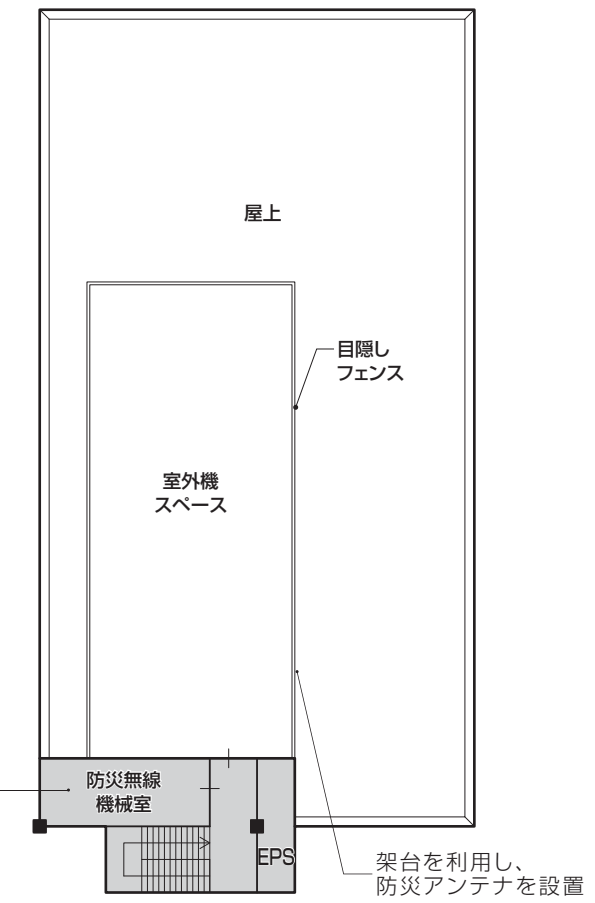
・職員用休憩室を兼ねた会議室を職員が利用しやすい中間階に設置



2階平面図
1,030㎡



3階平面図
1,030㎡



R階平面図
85㎡

S=1/400

公用車駐車場

・地上1階別棟の地下部分に公用車8台分のシャッター付き車庫を計画

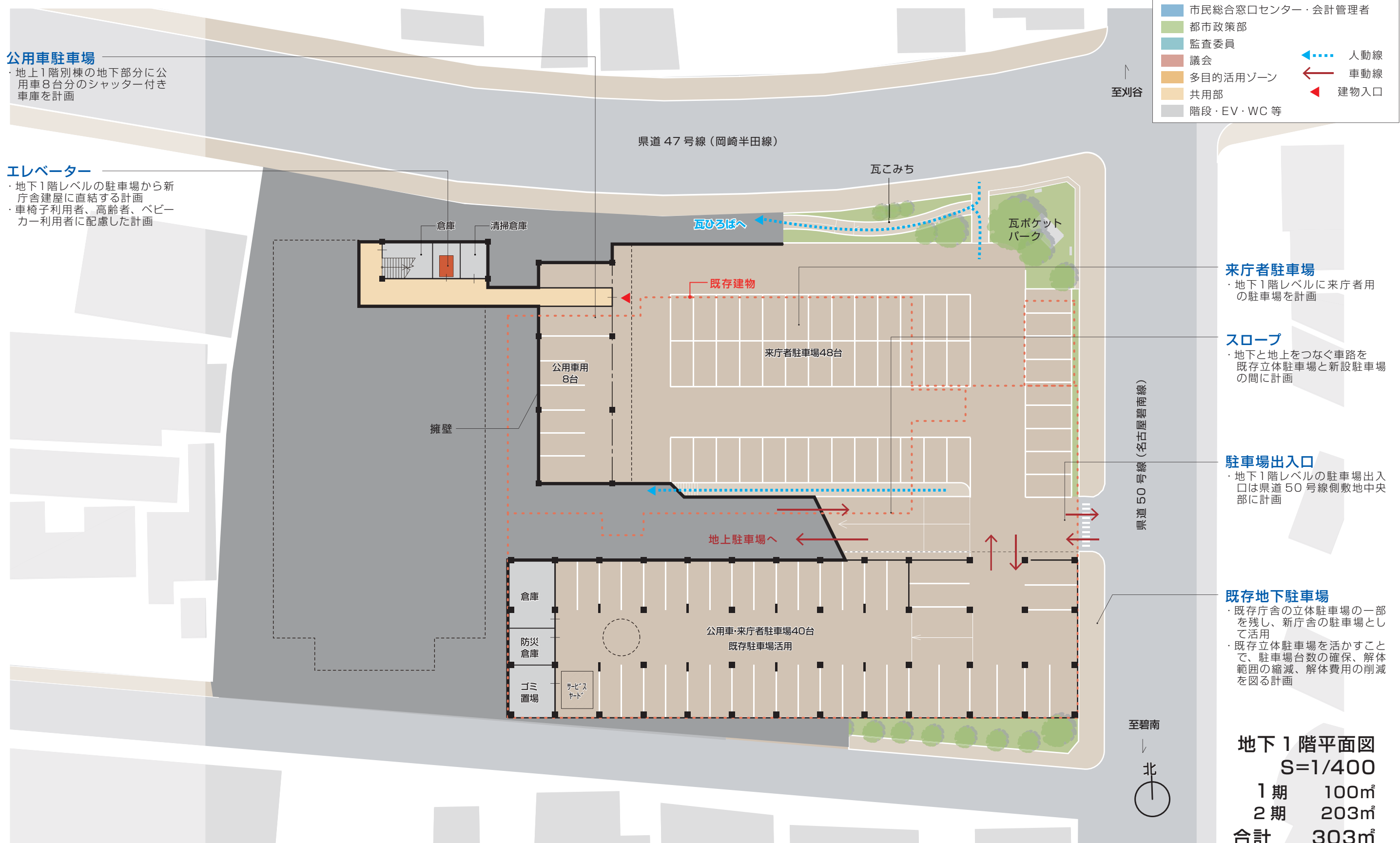
エレベーター

・地下1階レベルの駐車場から新庁舎建屋に直結する計画
 ・車椅子利用者、高齢者、ベビーカー利用者に配慮した計画

凡例

- 市長室 副市長室・企画部・総務部
- 市民総合窓口センター・会計管理者
- 都市政策部
- 監査委員
- 議会
- 多目的活用ゾーン
- 共用部
- 階段・EV・WC等

← 人動線
← 車動線
◀ 建物入口



来庁者駐車場

・地下1階レベルに来庁者用の駐車場を計画

スロープ

・地下と地上をつなぐ車路を既存立体駐車場と新設駐車場の間に計画

駐車場出入口

・地下1階レベルの駐車場出入口は県道50号線側敷地中央部に計画

既存地下駐車場

・既存庁舎の立体駐車場の一部を残し、新庁舎の駐車場として活用
 ・既存立体駐車場を活かすことで、駐車場台数の確保、解体範囲の縮減、解体費用の削減を図る計画

地下1階平面図

S=1/400

1期 100㎡

2期 203㎡

合計 303㎡

既存部分 1,060㎡